

執筆者一覧（掲載順）

- | | |
|---------|--|
| 蔡 錦 堂 | 国立台湾師範大学台湾史研究所教授 |
| 青 野 正 明 | 桃山学院大学国際教養学部教授 |
| 小 村 純 江 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 |
| 姜 婧 | 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 |
| 白 松 強 | 中南民族大学民族学与社会学学院在站博士后；
湖北民族学院民族学与社会学学院讲师，硕士生导师 |
| 坂 井 美 香 | 中国伝媒大学外国語学部外国人教師 |

■編集後記

『非文字資料研究』も節目の第15号を迎えました。第13号から年一回発行から年二回発行へと移行し、今号も充実した研究が揃いました。巻頭を飾るのは、海外神社班の公開研究会「植民地期、台湾の社・祠 vs 朝鮮の神祠・神明神祠——村落レベルにおける海外神社の比較検討」(2017年2月25日)での二つの講演をもとにした招待論文です。公開研究会やシンポジウムの内容についてはニューズレターでいち早くお伝えしていますが、そこでは収録しきれない詳細については、論文という形で発表することがやはり良いように思います。講演に対する反応も採り入れ再検討しつつ、研究会で映し出した写真や図もなるべく多く収録することで、研究会に参加できた方にもそうでない方にも貴重な論文となっているのではないのでしょうか。

また2本の投稿論文、2本の研究ノートも掲載することができました。何らかの答えを提示する、大部の論文が重要であることは言うまでもありませんが、フィールドワークの途中で暫定的に成果をしめす研究ノートの重要性も無視することはできないでしょう。研究ノートを読むことで、それに興味をもつ研究者との交流が生まれ、新たな視点やフィールドを獲得できることは少なくなく、いわば、論文よりも開かれている研究ノートという場を、とくに若手の研究者は利用していただきたいと考えています。

専門家として功なり名を遂げた研究者の招待論文から、新たな研究の萌芽となる研究ノート、そして調査報告や翻訳論文、書評にいたるまで、本紀要はさまざまな形の研究成果を受け入れることを今後とも続けていきます。(熊谷)

■表紙説明

「弁ヶ嶽」大嶽石門(那覇市首里鳥堀町)

首里城の東方約1kmにある「弁ヶ嶽」大嶽の石門。

弁ヶ嶽は琉球国時代の御嶽(うたき)の一つ。一般に「ビンヌウタキ」と呼ばれ峰全体がご神体とされた。沖縄島中南部で最も高い峰でかつては航海の目印でもあった。大嶽(ウフダダキ)と小嶽(クダキ)があり、大嶽の石門は1519年、園比屋武御嶽石門などとともに築かれた。1938年に国宝に指定されたが、沖縄戦で消失した。現在の石門は1954年に復元されたもの。

『琉球国由来』(18世紀に編纂)によれば、国内の諸峰で第一だとして「冕嶽」と名付けられたという。大嶽の神名は「玉ノミウヂスデルカワノ御イベツカサ」。弁ヶ嶽には国王が1、5、9月に親祭した。かつては石門の前に「拝殿(フェーディン)」と呼ばれる建物があったという。「国王頌徳碑」(1543年建立)は、尚清王が参道を石畳道とし周辺に松樹を植えるなど整備したとして王の徳を讃えている。(後田多)

非文字資料研究 第15号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No. 15

発行日	2017年9月30日
編集・発行	神奈川県立 日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 2432-5481